

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870600339
法人名	社会福祉法人光明会
事業所名	グループホームかわせみ
所在地	愛媛県西条市大町776-23
自己評価作成日	平成27年11月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・法人関連の小規模特養、ケアハウス、ヘルパーステーション、さらに隣接の協力医療機関と共に24時間体制で利用者の生活と健康を支えるシステムができています。</p> <p>・伊予西条駅から徒歩5分と近く、わかりやすい立地条件で交通の便が良い。</p> <p>・関連グループと合同で行う「光明会まつり」は地域の自治会の後援があり、利用者、ご家族の方の楽しみとなっています。</p> <p>・コンクリートの建物ですが、中へ一歩入ると暖かな雰囲気作りを大切に空間となっており、職員の顔ぶれはほぼ変わりなく、利用者やご家族に安心してもらえる関わりに入れています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>子どもがお好きな利用者が多いこともあり、光明会祭りの折には、くじ引きやゲームのコーナーを設けて、利用者と職員で店番等をしながら子ども達と交流できるよう取り組んだ。中学生の職場体験学習時には、生徒が利用者と一緒に七夕飾り作りやカレー作り等楽しみながら介護体験できるような場面を作った。調査訪問日には、法人の託児所の子ども達が10名程来て利用者と一緒に童謡を歌ったりボール遊びをしていた。利用者が「おいで」とやさしく笑顔で子どもを呼ぶと、子どもは利用者に抱きついたり膝の上に座り、一緒に手をたいたりする様子が見られた。</p> <p>年2回日中、夜間の火災想定で避難訓練を実施している。前年度、消防署から夜間職員1名時の訓練をすすめられ実施した。居室の掃き出し窓から利用者を外に避難させるため、職員は利用者をベッドから降り、窓から外へ出す方法を体験した。窓の近くには物を置かないように日頃から気を付けている。避難後の見守りは、自治会長を通じて地域の方に協力をお願いしている。水害時には併設事業所の2階に避難することになっており、日頃から行事参加等の折に階段を使用して介助方法等の確認を行っている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームかわせみ

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

高橋 英子

評価完了日

平成 27年 11月 10日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で話し合い、こうありたいと理念を作成し、その理念にある「共」は、利用者に関わるすべての人と考えています。 理念をロッカー室に掲げ、ホームに入る前に念頭におきサービスを提供するように心掛けています。 (外部評価) 職員全員で話し合い『共によるこび共に微笑みそっと背に手を添える共感できるケアを目指します』と理念を作っている。管理者は「行動の原因を考え寄り添う事が背に手を添える事につながる」と職員に話し、理念の実践へ導いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域(自治会)と合同で開催している光明会まつりも今年で4回目となり、関連グループ全体で取り組み、自治会の人々との交流の場となっています。 地域の敬老会のお手伝いを職員が行い、利用者が参加し大正琴や劇を楽しまれています。 (外部評価) 子どもがお好きな利用者が多いこともあり、光明会祭りの折には、くじ引きやゲームのコーナーを設けて、利用者と職員で店番等しながら子ども達と交流できるよう取り組んだ。中学生の職場体験学習時には、生徒が利用者と一緒に七夕飾り作りやカレー作り等楽しみながら介護体験できるような場面を作った。調査訪問日には、法人の託児所の子ども達が10名程来て利用者と一緒に童謡を歌ったりボール遊びをしていた。利用者が「おいで」とやさしく笑顔で子どもを呼ぶと、子どもは利用者には抱きついたり膝の上に座り、一緒に手をたたいたりする様子が見られた。	事業所は、光明会祭り等を通じて地域に顔見知りが増えてきているようだ。今後はさらに、利用者が地域の中に出かけて行き、地域の方達と交流できるような機会や場を作ってはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 相談に来られた方に介護サービスについて紹介したり具体的な支援の方法をわかりやすくお伝えしています。 認知症についての理解や支援の方法を関連グループで講話したり、中学生の職場体験学習の受け入れを行いました。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 併設の小規模特養と合同で、年間計画を立てて2ヶ月ごとに開催しています。介護相談員より、相談員の役割について話しをしたいとの提案があり、来年度に計画しています。 グループワークで出た意見を職員全体で話し合い、サービスに活かすように努めています。	
			(外部評価) 併設小規模特養と合同で会議を行っている。会議には、ご家族、市職員、現在・以前の老人会会長、介護相談員の参加がある。会議メンバーには、毎年4月に「どんな事を話し合いたいか、知りたいか」を聞き取り、年間計画を立てている。系列病院の協力を得て、『転倒予防・下肢筋力強化について・口腔ケアについて』等の講習を行っている。専門の方から話が聞けることもあり好評のようだ。会議議事録は、玄関の閲覧簿に綴じている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に市の事業所指導係の担当者に出席してもらい、情報交換の場となっています。 毎月介護相談員が来訪し、運営推進会議では、包括支援センターや、危機管理課の方に参加してもらい、施設での対応方法等相談しています。	
			(外部評価) 市の危機管理課の職員に災害対策について相談したり、対策についてアドバイスを受けている。地域包括支援センターから感染症の発生状況等について情報を得ている。運営推進会議に介護相談員が参加しており、28年度には相談員の役割等について説明する予定がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について正しい理解をする為、研修に参加し全員で学習しています。拘束しないことで起こりうるリスクについても学び、利用者ごとの対応方法(ベッド柵に鈴をつける、センサーマットを敷く)を行っています。 点滴を行う事もありますが、職員が傍で見守りしたり、ご家族の協力を得たりして拘束せずに行えています。	
			(外部評価) 玄関は出入り時にベルが鳴るようになっている。以前、ひとりで頻繁に出かけて行く方があったが、「なぜ外に行こうとするのか。」ということ職員で考えながら利用者の様子を観察した。職員は、「職員が他利用者」と話していたり、関わっているような時に玄関の方へ向かっている」という傾向に気づき利用者ご本人への声かけや関わりを多く持つことに取り組んだ。現在、ご本人は落ち着いて過ごしている。利用者の状態に応じて現在は2部屋にセンサーマットを使用している。居室の掃出し窓は電子ロックで利用者には開けられない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>良かれと思う発言でも結果的に虐待となっていないか、常に意識しています。認知症について正しく理解し、ケアの質を高めるよう職員全体で学んでいます。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>現在、成年後見制度を利用している方がいます。成年後見人の方が毎月来訪され、教えてもらえる機会があります。必要に応じて活用できるよう学んでいます。</p>	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>(自己評価)</p> <p>ホーム利用前に十分説明し、不安や疑問を尋ねるようにしています。又、契約内容改定の際、家族会で皆さんに説明し、その都度理解をもらえるようにしています。</p>	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議では、利用者・ご家族に参加してもらい、グループワークで市の方や相談員、地域の方といった外部の方と話しをする場があり、ご家族には年2回、家族会を開催し、要望等を話し合う場としています。 日頃からなんでも話しやすい関係づくりに努めています。 市の介護相談員が毎月来訪し、利用者の話を聞いてもらっています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>年2回、花見と運動会の行事後に家族会を開催している。ご家族同士で意見がぶつかるような事もあるが、本音で話し合う機会になっている。ご家族には、年4回、『かわせみ通信』にて、外出や事業所内での行事等の様子を写真付きで発行している。又、月1回、担当職員が利用者の日頃の様子や変化、利用者が発した言葉等を『連絡表』にまとめて送付している。その他にも、ご家族と利用者の事について話し合った際には、内容を記録に残し、お互いに確認ができるような仕組みを作っている。毎月の連絡表をファイルして、以前の状態を見直すようなご家族もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月／1回運営委員会を開催し、代表者・施設長・管理者・職員が運営状態等について話し合っています。 管理者は、日々の申し送り等で職員の意見を聞くよう努め、毎月の内部研修時、職員全員で提案等に対し話し合っています。	
			(外部評価) 県地域密着型サービス協会の研修内容を見て、職員が受けた研修に行けるよう話し合って決めている。受講後は、事業所内研修時に発表してみなで共有している。職員個々に年間目標を決め取り組んでおり、管理者が面談して達成に向けての指導、やアドバイスをを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や各職員の思いを知るよう、考課表に反省と今後の目標欄を設け、各自がどう感じ、何を目標として働いているかを知る方法の一つとなっています。 資格取得に対しての支援を行い、やりがいや向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めています。	
			(外部評価) 外部研修には、各職員の力量に応じた内容で参加できるよう計画を立てています。内部研修は毎月行い、研修報告を含め、専門の講師から話を聞く事ができています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の研修や、他の外部研修は同業者との交流の場となり、ネットワークづくりともなっています。相互訪問し、良い点・改善点を話し合い、サービスの向上に努めています。	
			(外部評価) 外部研修には、各職員の力量に応じた内容で参加できるよう計画を立てています。内部研修は毎月行い、研修報告を含め、専門の講師から話を聞く事ができています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の研修や、他の外部研修は同業者との交流の場となり、ネットワークづくりともなっています。相互訪問し、良い点・改善点を話し合い、サービスの向上に努めています。	
			(外部評価) 外部研修には、各職員の力量に応じた内容で参加できるよう計画を立てています。内部研修は毎月行い、研修報告を含め、専門の講師から話を聞く事ができています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前に自宅を訪問させてもらったり、本人が今どうしたいのか、どう考えているのかを知ることができるよう努めています。入居時には、不安が少しでも軽減できるよう、本人の話を傾聴し、表情や態度から気持ちが理解できるよう、傍で過ごすよう努めています。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用にあたり、困っていることや不安に感じていること、意向や要望等を聴くよう努めています。来訪時には、生活の様子を細かく伝え、なんでも相談しやすい関係づくりに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスを利用するにあたり、本人とご家族との面談を通じ、今何が必要かを話し合い、相談の上支援させてもらっています。ご家族や今までの生活の場を離れることが不安であると考え、できる限りご家族やなじみの人と接する機会を多くもってもらえるようにしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の得意とする事や仕事等を把握し、役割をもってもらったり、教えてもらったりしながら共に暮らしていけるよう努めています。くつろいで ご家族や仲間と一緒に過ごせる居心地の良い居場所をつくりたいと考えています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族来訪時には、ゆっくりと過ごしてもらうように、その時ごとに場を提供しています。(自室のみでなく、ホールや中庭)行事にもご家族の参加を呼び掛け、共に支え合えるようお願いしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 遠方からの友人が定期的に来訪されており、日頃の様子をお伝えし、良好な関係が保てるよう努めています。 入院中の利用者には職員だけでなく、仲良しの利用者もお見舞いに伺い、お互いの関係が途切れない様支援しています。 (外部評価) 毎年、利用者をご家族へ年賀状を出せるよう支援している。来訪頻度が少なくなってきたようなご家族には、管理者が電話して、様子等を聞くようにしている。定期的に友人が会いに来てくれるケースがあり、友人が不快な思いをする事がないよう、職員が事前に「今日は少し口数が少なく機嫌が悪いようですが怒っている訳ではないので反応が薄くても気にしないでくださいね」等と、その日の利用者の状態を伝えている。友人はその時々に応じて接してくれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 調理や洗濯といった家事を、利用者間で協力しながら行えるよう、職員が見守りし、利用者同士の関係づくりを支援しています。 職員が間に入りコミュニケーションをとることで、仲間意識ができ、体調が悪かったりすると労わり合い、助け合う事ができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居されたご家族の方が相談にみえることがあり、立ち寄りやすい雰囲気づくりに努めています。 入院により退居された方を見舞い、ご家族の話を伺い、話の内容によりワーカーに繋いでいます。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者が何気なく発する言葉の中に思いを知る機会があり関わりを大切に接し、思いや意向を把握できるよう努めています。意向を伝えることが難しい方は表情や言葉から思いを推し量る様努めています。 利用者が職員に依存傾向にあると感じており、利用者がどう暮らしたいか?どう感じているか?を知り、利用者主体の暮らしとなるよう努めています。 (外部評価) 入居時には、ケアマネジャー研修で使用したアセスメント様式を用いて情報収集に取り組んでいる。その後、家族構成、介護度の更新、状態変化があった際に随時更新している。『日々の記録』には時系列で利用者の行動や言葉等を記録しており、担当職員が毎月、『連絡表』にまとめている。利用者個々の様子を毎月まとめることで変化や思い、意向が解りやすく、介護計画につなげやすいようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人やご家族、サービス事業所等から、これまでの暮らしについての情報を収集しています。入居後、来訪の方からの情報や、生活していくうち知り得ることもあり、記録に残しておくようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人の1日の生活の様子や言動、体調やADLなどについて月1回、連絡表にまとめることで現状の把握に努めています。その状態に応じ支援内容を検討し、対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>より良い本人らしい暮らしが送れるように、利用者やご家族の意向を聴き、計画作成担当者を中心に話し合い、介護計画を作成しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族や利用者の希望を聞きとり、担当職員と計画作成担当者で介護計画を作成している。入院した事がきっかけで自分で出来る事も職員や娘に頼るようになった利用者の事例では、ご家族から「自分で出来る事は自分でしてもらいたい。」と希望があり、職員は「利用者にとって必要な介助は何か」「利用者自身が物ごとを決められず職員や家族に判断をゆだねる事は依存なのか」「判断を求める事が利用者にとって負担ではないか」等を再検討しながら利用者の出来る事、出来ない事を見極めて計画を作成した。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一日の様子を時間ごとに記録する様式を使い、ケア内容や気づき・工夫・状態の変化を記入して、介護計画の見直しに活かしています。朝・夕の申し送りや週間記録で情報を共有しています。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>生活していく上で発生するニーズに対応できるよう柔軟な考えで対応しています。通院の支援等、出来ることから実行に移して行うよう努めています。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ホームの周りにある地域資源を大切に、利用者が培ってきた地域との関係を継続できるよう支援しています。駅の交番や市の職員・学校等交流を持っています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 隣接に協力医療機関があり、定期的な往診があります。状態の変化に応じ、職員が付き添って受診しています。ご家族が付き添うこともあります。医師への説明が必要な場合は職員も同行しています。</p> <p>(外部評価) 週1回、系列病院の地域連携室の看護師の訪問があり、利用者の健康管理をしてくれており、状態変化時には、相談できる体制がある。骨折し手術を受けた利用者は、退院後、週3回リハビリに通っており、職員が送迎している。理学療法士が事業所内での利用者の動きや動線を見に来てくれて、支援についてのアドバイスがある。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者の日常の状態を把握し、変化や異常があれば看護師に報告し、アドバイスを受けて、受診の判断をしてもらっています。定期的に看護師が様子を見に来ています。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院中ほぼ毎日面会し、本人だけでなくご家族も安心できるように関わっています。骨折手術後 ホームからリハビリに通院することで早期退院できるよう、主治医・病棟師長・ワーカーと連携をとっています。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者のご家族に看取りを含め今後どうしたいか、入居時から希望をうかがうようにしています。ホームでできる支援内容を説明しご家族が感じている不安や心配を聞くようにしています。訪問看護との連携、協力医療機関の看護師、法人の看護師とのネットワークがあり協力して支援できる体制づくりとなっています。</p> <p>(外部評価) 事業所のできる事、できない事を説明して、ご家族の希望や意見を聞いている。家族間で意見が別れる場合は、方針を決めてもらえるよう話している。ご家族は、事業所で最期まで過ごすことを希望するケースが多いが、いざとなると治療希望があり、入院となるようなケースが複数ある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応については内部・外部研修で学び、マニュアルを作成しています。隣接の病院が近くストレッチャーで搬送した方が早い為、連絡体制についても話し合っています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の防災訓練の際、夜間を想定し利用者を職員ひとりで屋外に避難させられる方法、いざという時に動けるよう実際に行っています。又、水害時に2階に避難する訓練も利用者に階段を上ってもらったり、職員が抱きかかえたりして行っています。地域の方、協力病院にも避難場所を伝え、協力体制があります。 (外部評価) 年2回日中、夜間の火災想定で避難訓練を実施している。前年度、消防署から夜間職員1名時の訓練をすすめられ実施した。居室の掃き出し窓から利用者を外に避難させるため、職員は利用者をベッドから降し、窓から外へ出す方法を体験した。窓の近くには物を置かないように日頃から気を付けている。避難後の見守りは、自治会長を通じて地域の方に協力をお願いしている。水害時には、併設事業所の2階に避難することになっており、日頃から行事参加等の折に階段を使用して介助方法等の確認を行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者を年長者として敬い、安心し尊厳のある暮らしができるよう対応に努め、日々の関わりの中で、職員同士が声を掛け合い常に意識しています。自分やご家族だったらどう感じるかを考え、介護する側される側といった表面的ではない親身な関わりに努めています。 (外部評価) 調査訪問時、食事中に嘔吐した利用者があり、謝るご本人に対して職員は、「大丈夫よ。しんどかったね。落ちついた？」と体調を気遣いながら、ゆっくりやさしい口調で対応していた。又、他利用者にも不快感のないよう、お盆等を使って見えないように気遣っていた。「利用者との馴れ合いになってくると言葉がきつくなってしまう事がある。」ことを意識して利用者に接している職員もいた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段の生活の中で、利用者とのスキンシップを図り、寄り添い話を傾聴するようにしています。尋ねる内容を分かりやすくし、利用者が答えやすいように心掛け、食べたいもの、着たいもの等、日々の生活の中で自己決定できるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 休みたい時にひと休みし、様子を見て声をお掛けする、外へ出掛けたい時、希望に応じ散歩やドライブへ出掛ける等、その人らしい暮らしが送れるように可能な限り支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着たい服を選んでもらったり、自分で髪をとかしたりしてもらっています。 お花見や祭り見物など外出時に、お化粧を手伝ったり、季節に合ったその人らしいおしゃれができるよう支援しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の食べたいものを尋ね献立を作成し、ボードに記入しています。 調理が得意な方は一緒に食事づくりを手伝ってもらい、食器洗いやテーブル拭きなど、その人ごとできる事を行ってもらっています。	
			(外部評価) 献立担当職員が利用者と一緒に広告や料理本を見ながら献立を決めている。職員は、利用者の食事の様子や会話をメモしておき、担当職員に渡す仕組みがある。系列事業所の栄養士から献立についてアドバイスがあり、現在、カルシウム摂取できるような献立を意識して取り組んでいる。麺類を好む方が多く、夏は冷し中華やスパゲッティが好評のようだ。少人数でラーメンやうどんを食べに出かけることもある。食事やおやつの際には、テーブルクロスを敷き食事への意識を高められるよう工夫している。利用者が野菜の下ごしらえや食後の下膳、テーブル拭き、食器洗い等を行なえるよう、職員が声をかける等して支援している。時には、調味料等を利用者と近所の商店に買いに行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 普通の食事が難しくなった方に、ミキサーをかけたたり、刻んだりして食事をおいしく食べてもらえるよう工夫しています。 食事量や水分摂取量を記入し、必要量が摂れるよう心がけています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時と食後に行ってもらっていますが、口腔ケアに介助が必要な方が増えてきています。過剰な介助とならないよう、できることをしてもらおう支援しています。 夜は義歯を預かり洗浄し、清潔に保っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>ひとりひとりの排泄リズムを把握し、トイレ誘導をしています。間に合わない方には早めに声掛けを行っています。排泄の声掛けを嫌がる方には、立ち上がった際にお話してみたりしています。ご自分でトイレへ行かれる方は失敗がなかったかトイレ後の様子を伺っています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、その日の排泄状況を確認しながら誘導等して支援している。立ち上がりが困難な方もご家族や利用者からトイレで排泄できるよう希望があり、職員で介助方法を検討して支援している。排泄後職員を呼ぶことが難しい方には、車椅子に付けている鈴を、ご本人が鳴らすか、車椅子に触れることで鳴り、職員に解るよう工夫している。介助時には、手すりの位置等の使いやすさを観察し、場合によっては手すりを増やす等している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>起床時、一杯の水を摂るよう勧め、水分補給や軽い運動、ヨーグルトや繊維の多い食品等その人に応じた便秘の予防をしています。腸の働きの悪い方は医師と相談し食前の漢方の服用を援助しています。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>下肢筋力の低下により、一般浴槽に入ることができなくなった方があり、介護浴槽を設置しました。本人の負担が少なく、安心して入浴できることで、今まで通り仲良しの方と一緒に入ることもでき、喜んでもらえています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎日入浴できるよう準備し、個々に2日1回程度入浴できるよう支援している。浴槽の前の壁には、富士山が描かれたポスターが貼ってあった。以前は、夕食後の入浴も支援していたが、現在職員2名で介助するケースが増えたため、ご家族にも説明して「安全に入浴できる方が良い」との意見を得て、入浴時間を昼食後に変更している。又、以前は、一般家庭用浴槽であったが、浴槽に入る事が困難な方や不安感のある利用者もあり、介護浴槽を設置した。介護浴槽はシャワーチェアと同じ高さのため横移動でき楽に入浴出来るようになったと好評のようだ。利用者によっては、一般浴槽と介護浴槽とで仲の良い利用者同士と一緒に入る事もある。入浴を嫌がる方には「腰の痛みが楽になるから温めましょう」と声をかける等工夫している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>休みたい時には休んでもらい、タイミングを図り起きて過ごしてもらっています。ソファーや玄関椅子でくつろげる環境づくりをしています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ひとりひとりの薬について薬剤師の協力の下、分かりやすくファイルにまとめています。新しい薬や量の変化時には状況に注意し、症状の変化があれば早急に看護師に連絡し、医師と相談しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 楽しい暮らしが送れるよう、その人ごと得意とすること・好むことを支援しています。(編み物・調理・ドライブ・音楽など)調理の手伝いや洗濯等、習慣化され自ら意欲的に行われています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の重度化に伴い外出する事が難しくなっていますが、利用者ごとに行きたい所に行けるよう支援しています。お墓参りに行きたい方、ご家族と相談して行くことができました。又、ご家族が来訪するたび散歩に出られる方もいます。	
			(外部評価) お花のお好きな利用者が多く季節ごとに楽しみに出かけているが、以前に比べ車から降りる事を望まない方が多くなり、ドライブのみにとどまることが多いようだ。事業所の玄関前の藤棚の下でおやつを楽しむことがある。職員で対応することが難しい場合は、ご家族に相談しており、利用者は、ご家族と一緒に墓参りや親戚の家に出かけている。	以前に比べて外出を好まない方も増えたようで外出する回数が減っている。職員は「近くでもホッとでき楽しめる機会を増やしていきたい」と話していた。利用者の状態等もみながら戸外に出かけて気分転換ができるような機会を工夫してほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が管理している方もおり、外出時本人が使っています。又、こちらで預かっている方には必要時、本人にお渡しし自分で判断して使ってもらうようにしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人からの希望がなくても、こちらからお電話してはと勧めたり、不安な時、声を聞いてもらったりしています。年賀状には近況の写真と共に書ける方には自分で書いてもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	居心地良く暮らせるよう季節感のある空間づくりを工夫しています。ホーム内、音楽を利用者の邪魔にならない音量で流しています。廊下に行事の写真を掲示し、利用者やご家族が見て楽しまれ、話しが弾み気分も和まれています。	
			(外部評価)	廊下には、少し低めの位置にかわせみ通信を掲示しており、ご家族来訪時に利用者と一緒に見ながらお話ができるよう工夫している。廊下の突き当たりの日当たりが良い位置にソファを配置しており、昼食後には座ってうたた寝する方が見られた。職員は、そっと毛布を掛けていた。玄関の靴箱はそれぞれの名前を記しているが、利用者が選んだ柄のカーテンを付け目印にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	狭い空間ですが、玄関のちょっとした空間も利用者がひとりになれる場となっています。又、利用者数人がなごやかに談笑して過ごせるスペースがあります。	
			(外部評価)		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	ホッと落ち着き、くつろげる部屋づくりを本人・ご家族と相談し、その人ごとの光や温度に配慮しています。使い慣れた鏡台や椅子を置かれたり、ご家族の写真を飾られる等その人ごとにされています。寝具はホームで用意できますが、自宅で使い慣れたものを使用される方もいます。	
			(外部評価)	ベッドやクローゼットが備え付けられており、利用者はそれぞれにソファや三面鏡、テレビを持ち込んでいる。ベッド柵には、鈴やタンバリン等、音が鳴る物を取り付けており、音が鳴ると職員が様子を見に行くようにしている。シーツ類はリースで、利用者と一緒にシーツ交換や掃除をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	ホーム内はバリアフリーで手摺りを設置しています。歩行の障害にならないように、環境整備に心掛けています。トイレと脱衣所に新たに2本の手摺りを設置したことで立ち上がりやすく、安定した立位をとれるようになりました。	
			(外部評価)		